第35回 地域医療現地研究会

幸結びの路で見つける地域医療の取り組み

神々が宿る東紀州で実践する地域包括ケアと災害医療

開催日

令和3年
5月14日(金)・15日(土)

会　場 三重県御浜町中央公民館

■ 研究施設

紀南病院組合立紀南病院・熊野市立紀和診療所・紀南病院組合立介護老人保健施設 きなん苑・紀宝町 防災拠点施設(津波避難タワー)

主催：公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会／公益社団法人国民健康保険中央会
三重県国民健康保険診療施設協議会／三重県国民健康保険団体連合会

紀南病院組合立紀南病院

当紀南病院は、熊野市、御浜町、紀宝町の３市町で構成する一部事務組合の公立病院です。病院は、御浜町の丘陵に位置し、前方には雄大な太平洋を一望する七里御浜海岸があります。地域の特産であるミカンは、温暖な気候を利用して一年中収穫することができ、初夏の頃には、病院にも甘いミカンの花の香りを感じることができます。

当紀南地域は、紀伊半島の南端に位置し、非常に交通の便が悪く、永らく「陸の孤島」と称されてきました。ただし、ここ最近は自動車専用道路が三重県の都市部から年々延びて、かなり解消されつつあります。3市町を合わせた人口は、約３万6000人で、高齢化率は40%を超え、人口減少と少子高齢化が進んでいる地域です。

紀南病院は、昭和23年、当時構成していた21か町村の地域住民の強い要望により、「南牟婁郡立南牟婁民生病院」として設立しました。その後「紀南病院組合立紀南病院」と名称を変更し、70年にわたり地域医療の拠点として運営を行ってまいりました。

診療科は16科で、病床数は、一般急性期140床、地域包括ケア病床60床、回復期リハビリテーション病床40床、感染症病床４床の合計244床で運営しています。へき地拠点病院、災害拠点病院、地域医療支援病院等の施設認定を受け、当地域唯一の中核病院として、住民の皆さまに寄り添った医療の提供に努めています。

また、二次救急告示病院として、24時間365日の救急患者の対応を行っており、管内の救急の約80%の受入を行っています。

高齢者が多い当地域で、さまざまな医療ニーズに対応しながら、地域の関係機関と連携をとり、安心安全な医療の提供、地域包括ケアの推進に努めています。

熊野市立紀和診療所

熊野市立紀和診療所は、昭和56年1月9日に合併前の旧紀和町の診療所として開設されました。旧紀和町は基幹産業であった紀州鉱山と共に栄え、一時は総合病院もありましたが、鉱山が閉山した昭和53年以降、急速に過疎化が進み医師がいない状態となりました。そのため自治医科大学卒医師の派遣等を経て、現在は、へき地医療拠点病院である紀南病院から医師が派遣され診療を行っております。

現在医師２名、看護師２名、事務職員２名の体制で、紀和診療所のほか町内５か所へ巡回診療や町外２か所の市立診療所でも診療を行っています。

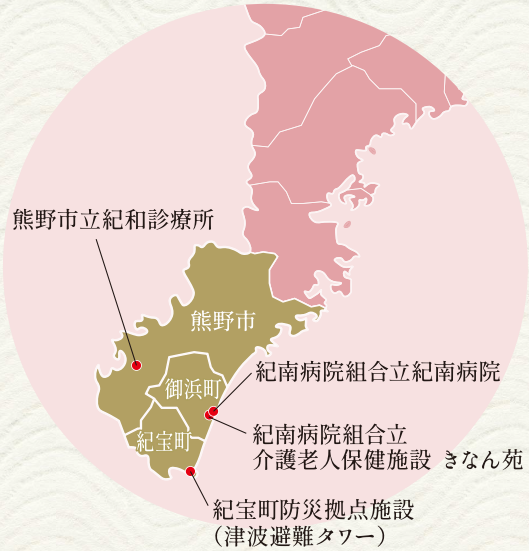
熊野市の人口は、約１万6000人で高齢化率も約43%と、過疎化と高齢化が進んでおります。そのような中、地域医療や市内山間部の医療を担う重要な役割を果たしております。今後も、地域住民の生命の安全と健康を確保し、安心して暮らせるよう診療を行っていきたいと考えております。

紀南病院組合立介護老人保健施設 きなん苑

平成10年7月に開設いたしました三重県下最南端の施設です。日本有数の高齢化地域である東紀州において、公立の施設として紀南病院と同様の３市町から構成される紀南病院組合で、100人の入所と20人の通所利用者の受入を行っている介護老人保健施設です。また、リハビリテーションにおいては、通所だけではなく、訪問によるサービスも提供しています。

４つの行動指針と４つの行動目標を掲げ、この地域に暮らす人々に対し、安心して生活していただくために医療、介護サービスを提供していきながら、公立の介護老人保健施設として、良質で多様なサービスの提供に努めています。

紀宝町防災拠点施設（津波避難タワー）

紀宝町では、平成23年に甚大な被害をもたらした紀伊半島大水害からの教訓を生かすとともに、近い将来発生が危惧されている南海トラフ大地震による大津波災害等への備えとして、想定されている津波最大高11ｍに対応できる施設を建設しました。

施設内には、災害時に必要な情報を迅速に収集、提供できるように、コンピューターサーバーや防災無線機器等を設置し、非常食や防災資機材を備蓄する災害用備蓄倉庫も有しています。また、津波発生時に約800人が避難できる避難スペースを設け、屋上には太陽光発電設備や72時間対応可能な自家発電機等を整備しています。